全米が"負け組家族"に大喝采!

ローリング・ストーン誌、ヴォーグ、ヴァニティー・フェア、マリ・クレール、ニューズウィーク、ピープル、USウィークリー、ニューヨーク・マガジン ニューヨーカー、ニューヨーク・タイムズ紙、USAトゥディ紙、ロサンゼルス・タイムズ紙

シカゴ・サン・タイムズ紙、ウォールストリート・ジャーナル紙、サンフランシスコ・クロニクル紙

ニューヨーク・ポスト紙、AP通信社、ロイター通信社 他多数のメディアが絶賛

サンダンス映画祭で異例のスタンディング・オベーション!



常第19回東京国際映画祭

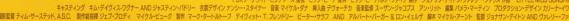
夢と希望を乗せて、黄色いバスは行く

リトル・ミス・**サンシャイン**









全米大絶賛、口コミによる予想外の大ヒット!

幸せの黄色いバスに乗った愛すべき落ちこぼれ家族の



2006年サマー・シーズン後半に登場するや超大作を押し退けて、映画ファンを熱狂させた『リトル・ミス・サンシャイン』。 9歳の娘を美少女コンテストに出場させるためアリゾナからカリフォルニアに向かうフーヴァー家が数々の障害に遭遇しながら、 家族の絆を深める姿をコミカルに、そしてちょっぴり感動的に描くロード・ムービー。サンダンス国際映画祭で評論家や観客から 圧倒的な支持を受けて以来、ハリウッドの隠し玉となっていたが、ここまでの大ヒットで遂に"勝ち組"の仲間入り。

"真の負け組とは、勝たない者のことじゃない。真の負け組とは、負けることを怖がるあまり挑戦すらしない者だ"——**グランパ**

監督ジョナサン・デイトン&ヴァレリー・ファリス夫妻は、ミュージック・ビデオや CMで鳴らしたクリエイター。劇場長編はこれが初だが、これまた脚本家デ ビューとなるマイケル・アーントが書いたオフビートなコメディを深い人間性を備 えた作品に仕上げている。もちろんキャスティングも映画の成功におおいに貢献 している。実力派グレッグ・キニア(『恋愛小説家』)とトニ・コレット(『イン・ハー・ シューズ』)が夫婦を演じたのをはじめ、超ペテランのアラン・アーキン(『シザーハンズ』)が不良ジジイ役を快演。そこに『40歳の童貞男』でコメディ界のセンセーションとなったスティーヴ・カレルとインディーズ映画界の新星ポール・ダノ、子役アビゲイル・ブレスリン(『サイン』)がナチュラル演技で花を添えれば、究極のアンサンブル・キャストが完成! VWミニバスに乗った彼らの旅路からもう目が離せない。



"あんたたちの家族でいたくないよ!みんな大嫌いだ!大嫌いだよ!みんな負け組だ!"——**ドウェーン**

≪STORY アリゾナ州郊外に住むフーヴァー家は、ちょっぴりエキセントリック。家長リチャードは"負けを拒否する"がモットーのモチベーション・スピーカー(成功論提唱者)で、家族にも持説を語る、語る。自分で開発した「9ステップ成功論」出版で勝ち組になる気ましました。そんな父親に反抗するかのように息子ドウェーンはニーチェに倣って沈黙を続ける。9歳の娘オリーヴはビューティ・クイーンになることを夢見、ミスコン出場に備えている。

ヘロイン吸引が原因で老人ホームを追い出されたグランパは悪癖をやめず、勝手なことを言い放題。母親シェリルは、てんでバラバラな家族をまとめようと奮闘中だ。そんなシェリルがゲイの恋人に捨てられて自殺未遂した兄フランクを自宅に引き取った日、オリーヴは「リトル・ミス・サンシャイン」コンテスト決勝への繰り上げ出場権を獲得。旅費節約のため、一家そろってオンボロ・ミニバスで決戦の地カリフォルニアを目指す旅が始まるが……











→リトル・ミス・サンシャイン

THE MISS CONICUINIS

キャスト:グレッグ・キニア、トニ・コレット、スティーヴ・カレル、ポール・ダ人,アピゲイル・プレスリン、アラン・アーキン 監督:ジョナザン・ディトン 8ヴァレリー・ファリス/脚本:マイケル・アーント 製作:マーク・タートルトーブ、ディヴィッド・T、フレンドリー、ピーター・サラフ、アルパート・バーガー&ロン・イェルザ 撮影監督:ティム・サーステッド、A.S.C./衣裳デザイン:ナンシー・スタイナー/挿入曲: デヴォーチカ

12月23日(紀)押せ押せロードショー



クリーナー(付き特別鑑賞券発売中)

●特別鑑賞券1枚お買い上げにつき、1個のブレゼントとなります。●劇場窓口のみで販売。●数に限りがありますのでお早めにお買い求めください。(なくなり次第、終了となります。)●詳しくは、劇場スタッフにお尋ねください。

JR川崎駅東口・京浜急行川崎駅中央口 川崎チネチッタ 044(223)3190 http://cinecitta.co.jp

